



写真・ハワイ州政府観光局提供

手紙の一部には、「太平洋の植物相について君が解き明かしてくれればいいなと切に思う……世界中に色んなところがあるが、サンドイッチ諸島（ハワイ諸島）の植物相をみたい。そこは世界で一番孤立した島々の集まりで、しかも島と島との間が十分に離れていると思う。」と書かれていました。ダーウィンはハワイ諸島には来ることはありませんでしたが、ハワイの自然の驚くほどの種の多様性に目を

これこそハワイの自然の魅力です。4000mを越える山が2つもあるハワイ島の世界遺産ハワイ火山国立公園など自然保護区で、じっくりと時間をかけて自然観察しませんか。ただハワイの美しい景観を楽しむだけでなく、自然の面白さや不思議さを発見する学びの旅、知ることによって感じることによって大きな喜びを感じる有意義な旅です。ハワイ島でお会いできることを楽しみにお待ちしております。（はせがわ くみこ）

太陽の活動期 ～オーロラ観賞のチャンス～

（オーロラ写真：1面参照）

オーロラは、北極や南極付近の上空100km以上の所に現れます。雲よりもずっと高い所です。これを人の目で見るには、空が暗いことが条件です。また、雲が多ければ見ることはできませんので、雲が発生しやすい暖かい時期も条件は悪くなります。北極圏近くの夏の時期には、20時間を超える日照時間や白夜もあり、オーロラ観賞は困難です。そのため、冬の寒い時期が適しているというわけです。

太陽は、太陽風と言われるガス（プラズマ）を常に放出しています。この太陽風が地球に到達したとき、地球の磁場の影響を受け、極地にある磁場の隙間から太陽風が進入します。オーロラの発光現象は、太陽風に含まれている電子が地球をとりまく大気の上層の電離層の粒子と衝突して起こります。オーロラは、緑と赤が混在したさまざまな色合いをつくり出します。

太陽は11年周期で活動期を迎え、活動期になると



太陽黒点も多く見られます。黒点の周辺では、フレアといって太陽爆発現象が起きています。黒点は周囲より温度が低く強い磁場があり、黒点が多ければ多いほど磁場が強くなり強い太陽風が吹いてきます。その結果、オーロラが頻繁に発生するということになります。この太陽黒点が多くなる活動期が、2011年から2014年です。大規模なフレアは、2012年10月23日に起こり、太陽黒点数も11月中旬は、106～188と観測されています（宇宙天気情報センター）。自然現象のため予測は難しいのですが、太陽が静穏期の黒点数は0の日もありますから、まさに、今がオーロラチャンスということなのです。

壮大な美しいオーロラを目で見て体験するのが、一番の感動です。それでも写真に残すなら、カメラのほかに三脚とレリーズが欠かせません。オーロラはたえず動いていますので、オーロラの彼方向こうに見える星とともに撮影するためには、高感度フィルムで15秒ぐらいの露出時間を要します。素敵な写真を撮ることができれば、それは二度目の感動です。（おの かずお）

大野一夫

BOOK GUIDE

『幸福な田舎のつくりかた
～地域の誇りが人をつなぎ、小さな経済を動かす～』

金丸弘美 著／学芸出版社／1,800円税別



11月末にカンボジアで行われた日米首脳会談で、野田首相は「環太平洋連携協定（TPP）交渉参加に向けた協議を加速する」と表明した。オバマ大統領は「日米同盟は地域の繁栄と安全保障の基礎になる」と強調したと報じられている。

本当の意味での「地域の繁栄」とは、その土地その土地に生きる人たちが、生き生きと暮らしていくことに他ならないのではないかと。この本を読むと、その思いを一層強くする。

徹底した現地取材を行い、元気な田舎に共通する“ポイント”をあぶりだす。サブタイトルにある通り、地域への誇りが感じられている場所では、元気に人が動き、その土地ならではの物が生まれ、元気に経済が回りだす。雇用も生まれる。多数の実例を知ると、実際にその場所へ行ってみたくなる。人と人との交流が、また新たにその土地の魅力を発見する要因となるのかも知れない。新しい観光のあり方も、またこの書の中に示されているように思う。

「幸福な田舎」を広げていくことが、日本を元気にすることに繋がるに違いない。TPPにその力があるとは、私にはどうしても思えない。（K.H.）